

コンソ語文法記述のための基礎データ

小 脇 光 男

(熊本大学)

kowaki@kumamoto-u.ac.jp

0. はじめに

2005 年および 2006 年の二回にわたり、コンソ地域において調査をする機会を得た¹。その際、今後予定しているコンソ語文法の概略を記述するための基礎データを不十分ながら収集することができた²。本稿では、これらのデータの中から、ある程度分析の進んでいるものについてその結果を、問題点にも言及しながら、一部報告する。

2006 年のコンソ滞在中、同地域のコンソ文化局において、主に後置詞について詳細な分析を試みた PhD 論文 Henriëtte Daudey & Anne-Christie Hellenthal, *Some morpho-syntactic aspects of the Konso language* (Leiden University, 2004) を閲覧することができた³。この中で、コンソ語文法の包括的な記述はまだなされていないこと、主にアジス・アベバ大学言語学科の学生により、コンソ語のシンタクス等に関する BA 論文がいくつか書かれていることなど、ここ数年間の研究状況を概略知ることができた(同論文 p.6 参照)⁴。

データの収集にあたっては、Kusse Kusmusho 氏(2005 年)、Kusse Kusmusho 氏と Tamiru Berisha 氏(2006 年)にインフォーマントをお願いした。いずれも、コンソの中心 Karate 地域出身の男性である。2006 年の調査では、二人のインフォーマントから同時にデータを得ることができ有益であったが、その一方で両者の意見が食い違うこともしばしばあり、結果として一貫したデータを得るに至らなかった部分も少なくない。従って、以下に提示するデータには、音声の表記

¹ 本調査は平成 16～19 年度科学研究費基盤研究(B)(1)「オモ・クシ系少数言語の調査研究及び地理情報システムを用いたデータベース構築」代表：乾秀行(山口大学)(課題番号 16401008)によるものである。

² 平成 13～16 年度科学研究費基盤研究(B)(1)「多言語国家エチオピアにおける少数言語の記述、ならびに言語接触に関する調査研究」代表：柘植洋一(金沢大学)(課題番号 13571039)においては、主としてコンソ語の基礎語彙に関する調査を行い、その結果は、「コンソ語の語彙についての覚書」として、柘植洋一編『多言語国家エチオピアにおける少数言語の記述、ならびに言語接触に関する調査研究』(“Cushitic-Omotiic Studies 2004”) (2005 年 3 月)に発表した。なお、この期間に得たデータの一部を本稿でも利用している。

³ 同著者は Korra Garra, “Torraa Afaa Xonso F’(Mother Tongue Stories, 1) など、コンソ語のラテン文字化にも協力している。

⁴ これらの最近の業績については未見である。古い業績については既に、上記注 2 の拙論中に数点挙げておいた。

や語形の記述に少なからず曖昧な点を含んでいることをお断りしておく⁵。

1. 名詞の性

形態上、性を判別できる要素は明瞭ではないように思われる。ただし、人間を表し、一定の語形を有する名詞にあっては、男性名詞に語尾-ēta を付すことにより女性名詞が派生する⁶。

男性	女性
kollatambayta 学生	kollatambaytēta
kollisambayta 教師	kollisambaytēta
xonsitta コンソ人	xonsittēta
japanitta 日本人	japanittēta (j=[ʒ])

2. 名詞の数

名詞の数には単数と複数が区別される。複数形の形成には、今のところ、以下の方法を確認している。ただし、インフォーマントによってしばしば異なった形が挙げられたり、同一の語に二つ以上の複数形があるなど、不明な点も少なくない。

(i) 語尾-ḏa(/ḏḏa)を付す(最も多いタイプ)

horma → hormaḏa 雄牛

pisa → pisaḏḏa 花

(ii) 語末の-taを除く(音変化を伴うことがある)

lafta → lafa 骨

oxinta → oxna フェンス

cf. panta → pantaḏa 弓矢

ilta → ilda 目

(iii) 語尾-wwaを付す

⁵ 本稿では音韻に関する部分は省略する。音声の表記は簡略にした。d[d], ʒ[ʒ], č[ʧ], x[x] とし、ejective は ʔ, q(=k') とした。母音の前後に付した'は glottal stop ないしは音節の区切りを示す。有声音と無声音の対立はなく、同一の語であっても、二様の音が聞かれる(例: 挨拶の文句 nagaita/nakaita)。ぞんざいに発音した場合に有声化するようであるが、有声化の規則は明らかではない。母音の長短、アクセントについてもインフォーマントによって一貫していないことが多く、本稿でもこれらを十分に考慮した標記となっていない。また、実際の発話では、語頭、語末の母音が弱化、消失する現象が度々生じるため、原形の復元になお調査を要する面が多い。

⁶ 語尾が-ayta の名詞(動詞から派生した何らかの形であろう)の複数形は男女同形で kollatambaya, kollisambaya など。xonsitta などは男性形が総称的に複数も表すようである。なお、xampiritēta「鳥」、pinnēta「蚊」、palēta「村」のように語尾-ēta(インフォーマントによっては e は短い)を持つ語が女性であるかどうかは未確認。ただ、今のところ、一般名詞で性の別が統語上意味を持つ例に出会っていない。ついでながら、名詞はたいてい開音節で終わり、その母音は-a である。

harrēta → harrewwa ロバ

irrota → irrowwa 山

olla'ata → olla'awwa 葉

cf. talteta → tala ヤギ

(iv) 語尾-ya (語末が-a/itta の名詞にしばしば見られる)

okkatta → okkaya 雌牛

aykitta → aykiya 草

cf. ilkitta → ilka 齒

(v) 子音重複(相当数の例がある)

tika → tikka 家

orana → oranna 槍

(vi) 語末母音-a の長音化(相当数の例がある)

harka → harkā 手

kilpa → kilpā (又は kilpaḏa) ひざ

cf. xampiritēta → xampirā 鳥

(vii) その他 (単数形と複数形が別な語形)

inna → hella 赤ん坊

nama → orra 人々

3. 名詞の格

格を表示する語尾等の要素は特に認められない。ここでは、属格に相当する表現方法についてのみ記しておく。

(a) 非修飾語—修飾語の順に並置する。

(1) išīéta iskatta kusse.

彼女 妻 人名

「彼女はクッセの妻である」

(b) 非修飾語と修飾語の間に-ba を介在させる。

(2) aylito innanto-ba ošše.

人名 姉妹-の 人名

「アイリトはオッシュェの姉妹だ」

(3) kusse innā-ba bariša.

人名 兄弟-の 人名

「クッセはバリシャの兄弟だ」

(c) 非修飾語を接尾代名詞として修飾語に付す。

(4) xobāsen heráyšo igokkoki/inukuli.
靴・その(指示詞) 値段・その(所有代名詞 3pl., xoba を指す) 高い/安い⁷
「その靴の値段は高い。 / その靴は高い/安い。」

cf. (5) hera xobōseneti igokkoki/inukuli. (上記(a)による)
値段 靴-その(指示詞) 高い/安い
「その靴の値段は高い/安い」

4. 人称代名詞

人称代名詞は、主格と対格が区別されているが、一部を除き両者は同形である⁸。対格形は直接目的、間接目的の両方に用いられる。中性形(n.)は後述の指示代名詞と同じである。

	主格	対格
sg. 1	ánti	ána
2	attí	ke
3 m.	íša	íša / íši
f.		išíéta / išíénna
n.		íni
pl. 1		íno
2		išína
3 m. & f.		išónna
n.		séne

(6) attí ána č'alanni.⁹
あなた 私(を) 愛する/好きだ
「あなたは私が好きだ」

⁷ igokkoki, inukuli の原義はそれぞれ「強い」「柔らかい」の意。hera 「値段」とともに用いると「高い」「安い」の意。

⁸ インフォーマントによって、anti, atti の語末母音 i は e, ino は inu, unu とも発音される。また ke は一部の地域で ci と発音されるという。

⁹ 動詞には、後述するように人称を明示する接頭辞が付くはずであるが、実際の発話ではしばしば、直前の語と連続して発音されることにより消失する。例: pīfa indámma! 「昼食を食べよう」
→ pīfandámma!

(7) *iša ke č'alanni.*

彼は あなた(を) 愛する/ 好きだ

「彼はあなたが好きだ」

(8) *motīyo dāsata ana dāše.*

友人・私の プレゼント 私(に) 与えた

「私の友人は私にプレゼントをくれた」

(9) *dāsata iši dāše.*

プレゼント 彼(に) (あなたは)与えた

「あなたは彼女にプレゼントをあげた」

直接目的、間接目的とともに代名詞とする表現法は一般的ではないが、次のように言えば許容できるという。この場合、間接目的には後置詞・e(n)¹⁰「～に、へ」が付され、直接目的は特に明示しない。

iša-en dāše. 私は(それを)彼にあげた。

ana-e dāše. あなたは(それを)私にくれた。

ke-e / ino-e dāše. 彼は(それを)あなたに/あなた方にあげた。

5. 所有代名詞

所有代名詞はもっぱら接尾辞形として現れる。性による区別はない。以下に、*tika* (複数形 *tikka*) 「家」を用いた例を示すにとどめる。

	sg. <i>tika</i>	pl. <i>tikka</i>
sg. 1	<i>tikīyo</i> ¹¹	<i>tikkayyo</i>
2	<i>tikayti</i>	<i>tikkayti</i>
3	<i>tikādī</i>	<i>tikkādī</i>
pl. 1	<i>tikinno</i>	<i>tikkanno</i>
2	<i>tikayšin</i>	<i>tikkayšin</i>
3	<i>tikayšo</i>	<i>tikkayšo</i>

¹⁰ 末尾の-nは、後述するように、動詞の1人称の人称接頭辞の一部-nが代名詞に移行したものと考えられる。*ke_n (išán, išietán / išiennán, inín, išinán, išonnán) č'alanni.* 「あなた(彼、彼女、それ、あなた方、彼ら)を私は愛する」

¹¹ インフォーマントにより、1人称単数・単数名詞用の接尾辞は *maxáo/u* 「私の名前」、1人称複数・単数名詞用の接尾辞は *tikáynu*。また、2人称単数の接尾辞は *tikáyt, tikkáyt* のように語末の-iが落ちることがある。なお、アクセントは接尾代名詞の前に置かれるようである。

6. 指示詞

指示詞には独立形と接辞形がある¹²。独立形では一応、近称と遠称が区別されるが、どちらを用いるかは、かなり主観的であるように思われる。

	独立形		接辞形
	近称	遠称	(遠近の別なし)
sg.	ini / séde	dise / diseyie ¹³	-se
pl.	séne		-sen(e) / -seneti

独立形は主格として用いられるが、指示形容詞にもなることがある。

ini penna これはペンだ。 / このペン
 séde penna それ(あれ)はペンだ。 / その(あの)ペン

ただし、指示形容詞としては、(a)形容詞によって修飾された名詞を指すのが一般的な用法であり、指示詞としてはむしろ(b)接辞形による方法がより自然であるとされる¹⁴。

(a) séde kuta (犬) apōra(黒い) その黒い犬
 (b) kutose pōra

(a) ini tika(家) kutta(大きい) この大きな家
 (b) tikose kutta

7. 形容詞

形容詞の位置：名詞を修飾する形容詞は、前出の例に見たとおり、kuta apōra「黒い犬」、tika kutta「大きい家」のように名詞の後に置かれる。また、tikose kutta「その大きな家」のように、名詞と形容詞との間に指示詞の接尾辞が介在することができる。

複数形名詞を修飾する場合：名詞が複数形の場合これを修飾する形容詞は(a)無変化のものと、(b)語中の一音節が重複するものがある。どちらが一般的な形式かは不明である。

(a) xampiritēta abaqāra「きれいな鳥」(sg.) → xampirā abaqāra (pl.)

¹² インフォーマントによっては、sedī, dīsi, seni、-siのように、語末のeがiに発音される。

¹³ diseyieは特に<遠いこと>を強調する際に使われるという。なお、接辞形pl.の-sen(e)と-sentiの区別は不明のままである。

¹⁴ 接辞形の用法としては指示性というよりもむしろ、「定」を明示しているのかもしれない。
 tika kutta「(不特定の)家」: tikose kutta「(特定の、既知の)家」

- (b) *kuta apōra* 「黒い犬」(sg.) → *kutta apopōra* (pl.)
tika kutta 「大きい家」(sg.) → *tikka kukutta* (pl.)

形容詞が述語となる場合も同様に重複する。

- (10) *kutōse pōra*¹⁵ *ikutti*. (sg.) → *kuttōsen(e) porpōra ikukutti*. (pl.)
 犬-その 黒い 大きい
 「その黒い犬は大きい」
- (11) *tikōse ikutti*. (sg.) → *tikkōsen ikukutti*. (pl.)
 家-その 大きい
 「その家は大きい」

述語となる形容詞の形：形容詞が述語となる場合、その形式には二通りある。

- (12-a) *kutōse ipōri*.
 (12-b) *kutōse apōra*.
 犬-その 黒い
 「その犬は黒い」(以下、形容詞の形を無視すれば、a,bともに同意)
- (13-a) *tikkōsen ikukutti*.
 (13-b) *tikkōsen akukutta*.
 家 pl.-その 大きい
 「その家は大きい」
- (14-a) *pennosen idīmi*.
 (14-b) *pennosen adīma*.
 ペン-その 赤い
 「そのペンは赤い」
- (15-a) *xampirōsen kukutta ibaqāri*.
 (15-b) *xampirōsen kukutta abaqāra*.
 鳥 pl.-その 大きな きれい
 「その鳥はきれいだ」

¹⁵ *apōra* 「黒い」、*abaqāra* 「きれいな」、*adīma* 「赤い」など、語頭の a-は母音の前でしばしば消失、ないしは直前の母音-aに融合するようである。cf. *penna adīma* → *penna dīma* [pénna: dī:ma] 「赤いペン」など参照。

すなわち、ipōri / apōra、ikukutti / akukutta など、(a)語頭と語末に i を持つ形式と(b)a を持つ形式の二通りが現れる。インフォーマントによれば、「心的、物理的に話者に遠いと感じられれば前者(a)i の形式、近いと感じられれば(b)a の形式を用いる」と説明する。これについてはなお検証を要するが、次の文に対するインフォーマントの判断を参照されたい。既に触れたように、例(16)の指示詞は遠称形(特に dīseyie は強調形とされる)、例(17)の指示詞は近称形である。

(16-a) dīseyie xampiritēta ibaqāri. (あそこにいる)あの鳥はきれいだ。

(16-b) ?? dīseyie xampiritēta abaqāra.

(17-a) ?? ini / sedē xampiritēta ibaqāri. (ここにいる)その鳥はきれいだ。

(17-b) ini / sedē xampiritēta abaqāra.

8. 名詞文の肯定形と否定形

現在時制では、単数複数ともに 1、2 人称において、接頭辞 an- が付される(過去時制も同形)。否定には更に接尾辞 -n が付される¹⁶。tōlayta 「金持ち」、tēkolayta 「貧乏人」を例として示す(女性形は省略する)。

	肯定形		否定形	
sg. 1	anti	<u>antōlayta</u> / <u>antēkolayta</u>	anti	<u>antōlaytan</u> / <u>antēkolaytan</u> .
2	atti	<u>antōlayta</u> / <u>attēkolayta</u> ¹⁷	atti	<u>antōlaytan</u> / <u>attēkolaytan</u> .
3	iša	tōlayta / tēkolayta	iša	tōlaytan / tēkolaytan.
pl. 1	ino	<u>antōlaya</u> / <u>antēkolaya</u>	ino	<u>antōlayan</u> / <u>antēkolayan</u> .
2	išina	<u>antōlaya</u> / <u>attēkolaya</u>	išina	<u>antōlayan</u> / <u>attēkolayan</u> .
3	išonna	tōlaya / tēkolaya	išonna	tōlayan / tēkolayan.

実際の発話では、接頭辞 an- は直前の人称代名詞と一体となって、anti'an, atti'an, ino'an となり、この結合形が人称代名詞の異形としてインフォーマントには捉えられている感がある。なお、人称代名詞が略されても、接頭辞 an- は残る。

(18) (anti) anxonsittan -ma, anjapanitta.

(私は) コンソ人-否定-しかし 日本人だ

「私はコンソ人ではなく日本人だ」

¹⁶ 別のインフォーマントは、-nin(an-xonsitta-n など)の形を挙げた。

¹⁷ 2 人称の attēkolayta, attēkolaya 中の at- は an- の n が t に同化したものであろう。1 人称では同化しない！ 類例：ankollatambayta(1 人称)、akkollatambayta(2 人称)「私/あなたは学生だ」

未来形の変化は例えば、

肯定形 sg. 1 : tölayta inkodda (実際の発話では tölaytankodda)

否定形 # : tölayta ankoddu (実際の発話では tölaytankoddu)

のように、動詞 kodiya「作る」の未来形を用いて形成する。動詞の人称変化については次節で略述する。

9. 動詞

時制と人称変化：動詞の時制(仮にこう呼んでおく)には現在、過去、未来がある。それぞれ人称、数、性(3人称単数のみに区別がある)に応じ、語幹に接頭辞、接尾辞を付して人称変化する。また、それぞれの時制の否定形も肯定形と同様に人称変化を行なう。

以下にモデルとして、動詞 kollissa「教える」の人称変化を挙げる。参考までに命令形(肯定形は無接頭辞)も記しておく。イタリック体は否定形である。

	現在	過去	未来	命令
sg. 1	<u>inkollinni</u> <i>ankollišo</i>	<u>inkolliše</u> <i>ankollinne</i>	<u>inkolliša</u> <i>ankollišo</i>	
2	<u>ikkollinni</u> <i>akkollišo</i>	<u>ikkollise</u> <i>akkollinne</i>	<u>ikkollisa</u> <i>akkolliso</i>	<u>kolliše</u> <i>inkollišan</i>
3 m.	<u>ikollinni</u> <i>inkollišo</i>	<u>ikolliše</u> <i>inkollinne</i>	<u>ikolliša</u> <i>inkollišo</i>	
f.	<u>ikollinni</u> <i>inkolliso</i>	<u>ikollise</u> <i>inkollinne</i>	<u>ikollissa</u> <i>inkolliso</i>	
pl. 1	<u>inkollininna</u> <i>ankollinno</i>	<u>inkollinne</u> <i>ankollinne</i>	<u>inkollinna</u> <i>ankollinno</i>	
2	<u>ikkollinnitan</u> <i>akkollisan</i>	<u>ikkollisen</u> <i>akkollinne</i>	<u>ikkollišan</u> <i>akkollisan</i>	<u>kolliša</u> <i>inkollišan</i>
3	<u>ikollinni</u> <i>inkollišan</i>	<u>ikollišen</u> <i>inkollinne</i>	<u>ikollišan</u> <i>inkollišan</i>	

kollissa の語幹(恐らくは kolli-)の接頭要素は、先の名詞文に現れるものとほぼ一致するが、接尾要素は全時制を通じて、微妙な音変化を伴う相当に複雑な人称語尾によっている。動詞の人称変化にはいくつかのタイプがあるはずであるが、その概略はまだ把握していない。本稿の終わりに、いくつかの動詞について変化表を付しておいたので参照されたい。

人称接頭辞の移動：単数、複数ともに1人称および2人称に現われる動詞の接頭辞-n-要素(nの前の母音 i-/a-は消失する)は、しばしば前方の語に移動する。「私(あなた・・・)はコンソ語を学ぶ」を例にnの移動例を示す。

- sg. 1 afa xonson_n¹⁸ kollanni ← inkollanni
 2 afa xonson kollanni ← ikkollanni (←*inkollanni)
 3 afa xonso_o kollanni ← ikollanni
 pl. 1 afa xonson_n kollanninna ← inkollanninna
 2 afa xonson kollannnitan ← ikkollannnitan (← *inkollannnitan)
 3 afa xonso_o kollanni ← ikollanni

以下、いくつか類例を挙げておく。

- (19) anti punitta ikkiyan_n hēna.
 私 コーヒー 飲む 欲する
 「私はコーヒーが飲みたい」

cf. 3人称ではこのようなnは現われない。

- (20) iša punitta ikkiya_o ihēna.
 彼 コーヒー 飲むこと 欲する
 「彼はコーヒーを飲みたがっている」

- (21) xoba hārayan_n pidđine.¹⁹
 靴 新しい (私たちは)買った
 「私たちは新しい靴を買った」

- (22) anti dāsatan_n motīyo dāse.
 私 プレゼント 友人(に) あげた
 「私は友人にプレゼントをあげた」

次のようにnが動詞の直前の語ではなく、動詞から離れた語に付く例もある。

- (23) xoba hārayan_n innanno pidđinne.
 靴 新しい 子ども-我々の (我々は)買った

¹⁸ 単独形 xonso の語末母音 o は-n の前で[xons(ə)n]のように弱化、ないしは消失する。

¹⁹ tika kutta-en pidđa. 「私は大きな家を買うだろう」中の-en は動詞 inpidđa の接頭辞 in-がそのまま移動したものか？

「私たちは子どものために新しい靴を買った」

(24) motiyo-qarayien harrewwa sessa pidde.

私の友人-から ロバ 3 (私は)買った

「私は友人から3頭のロバを買った」

10. 不定詞

不定詞(あるいは動詞的名詞か)の用法は大体において英語等と同じであると思われるので、次のような例文からその形態を知ることができる²⁰。

(25) atti afa xonso hāsawatta i'ettanissa.

あなた 言語 コンソ 話すこと できる

「あなたはコンソ語を話すことができる」

(26) iša afa enklizēniya ino kollissa i'ettanša.

彼 言語 英の 我々に 教えること できる

「彼は我々に英語を教えることができる」

(27) areppa kāiya ikkiya i'nettanša?

ここで タバコ のむこと できる

「ここでタバコを吸うことができますか?」

(28) kusse tika hāraya pidḍiya -malla okata kate.

(男・人名) 家 新しい 買うこと-ために 牛 売った

「クッセは新しい家を買うために牛を売った」

(29) anti kollatta-en ~-opa āne.

私 学ぶこと-ために ~-に 行った

「私は学ぶ(勉強の)ために~に行った」

(30) kollisambaya koḍḍan hēnna.

教師(pl.) なること (我々は) 欲する

「我々は教師になりたい」

²⁰ 不定詞の他に分詞とされるものがあり、次のように人称変化を行なう。例：ikkiya「飲む」

	sg.	pl.
sg. 1	ikappanča	ikappankinna
2	ikappakkita	ikappakitten
3 m.	ikappača	ikappačan
f.	ikappakkita	

これらの例文等から、不定詞の形態を語尾の形により、少なくとも次の3つのタイプに分けることができる²¹。

(i) -(i)ya タイプ

ikkiya 飲む
kitiya 売る
pidḏiya 買う
kodiya 作る

(ii) -(a)tta タイプ

kallatta 住む
hāsawatta 話す
kollatta 学ぶ
qabnatta 持つ、所有する

(iii) -(i)ssa タイプ

kollissa 教える
akissa 見せる
orissa 答える

11. 後置詞

コンソ語は後置詞に富んでいるようである。ここではいくつか例示するにとどめる。

(31) (anti) kwwiyata pisa tika-kollima-opan²² anni.

(私) 毎 日 学校へ 行く
「私は毎日学校へ行く」

(32) tika-kollima-opan moto-qan anni.

学校へ 車-で (私は)行く
「私は学校へ車で行く」

(33) urumala-pan museta pidḏe.

マーケット-で バナナ (私は)買った
「私はマーケットでバナナを買った」

²¹ インフォーマントによれば、pidḏiya, ikkiya, kollatta, kodiya などに加え、それぞれ pidḏeta/ pidḏa, ikkēta, kollima, kodḏa の形もあり、例文(26)~(30)ではどちらも使えるとのことである。

²² 以下、後置詞の末尾に現れる-n は人称接頭辞の n 要素のことがある。

(34) pillawa-nnen museta imurri.
ナイフ-で バナナ (私は)切った
「私はナイフでバナナを切った」

(35) akalayti loša-qara ča²³.
カバン-私の ベッド-上に ある
「私のカバンはベッドの上にある」

(36) pinnēta qussa-quda ča.
蚊 壁-に いる
「壁に蚊がいる/蚊が止まっている」

(37) xonso-pan išieta-olle anne.
コンソ-へ 彼女-と一緒に (私は)行く
「私は彼女とコンソへ行く」

(38) keltayta tika-tura (kamma, kaba) ča.
サル 家-前に (後ろに, 近くに) いる
「サルが家の前(後ろ、近く)にいる」

12. 疑問詞

以下のものを挙げるにとどめる。

(i) māna 「何？」

(39) ini māna? - ini tika.
これ 何 これ 家
「これは何ですか」「それは家です」

(40) amma māna kōni?
今 何 (あなたは)している
「今。あなたは何をしていますか」

(41) xala urumala-páiyē māna pidđite?
昨日 マーケット-で 何 (あなたは)買った
「昨日、あなたはマーケットで何を買いましたか」

²³ ča は存在「いる、ある」を表す動詞。現在と過去の別はなく、変化も単純である。本稿末の動詞変化表を参照。

(ii) áyno 「誰？」

(42) ini tika áyno? — tikīyo
これ 家 誰 家-私の
「これは誰の家か」「私の家だ」

(iii) ayša 「どこ？」

(43) tikayti ayša ?
家-私の どこ
「あなたの家はどこか？」²⁴

13. 数詞

数詞についての詳細は割愛する。ただ、助数詞について、次の疑問点に触れておく。助数詞(ここでは1～10のみ)は名詞の後に置かれるが、名詞文の中では、語頭が子音で始まる助数詞にはすべて a-が付されるということである。前述の名詞文に現れる接頭要素との関連が想起されるが、不明である²⁵。

「第1～10番目の日」	「これが第1～10番目の日である。」
kuyyāta payōta	sede/ini kuyyāta apayōta.
alamatta	alamatta.
asesatta	asesatta.
arfatta	arfatta.
kenatta	akenatta.
lehatta	alehatta.
tappatta	atappatta.
settetta	asettetta.
sakalatta	asakalatta.
kundatta	akundatta.

14. おわりに

本稿では、主に名詞、形容詞、動詞の項目について、基礎的な分析、記述を試みた。名詞文や動詞の人称変化等、一部の項目についてはある程度の分析結果が得られたと思う。しかし、限られた調査期間内に広範囲の項目にわたってデータを収集しようとしたため、項目によっては正確な分析を行なうだけのデ

²⁴ 答えとして、例えば、tikīyo xonso-karati-ppa.のように場所を示す後置詞-ppa を付してもよいが、インフォーマントによれば、後置詞無し、tikīyo xonso-karati.が普通だという。

²⁵ エチオピア文字によるコンソ語訳『創世記』も参照した。

ータを欠いている。特に今回触れることのできなかつた動詞の受動、使役等の重要な項目については、今後の調査でデータの補強が必要である。

冒頭に述べたように、複数のインフォーマントから得たデータを基にしているため、細部の点で一貫した分析が難しい場合が多々あるのであるが、データの使い方によっては合い補い合うことがあるかもしれない。また現在、少数言語の文字化計画が進んでいると言われ、こうした文字化されたテキストの活用も分析を進めていく上で役立つであろう。

付表《動詞活用例》²⁶

kollissa 「教える」

sg. 1	<i>inkollinni</i> <i>ankollišo</i>	<i>inkolliše</i> <i>ankollinne</i>	<i>inkolliša</i> <i>ankollišo</i>	
2	<i>ikkollinni</i> <i>akkollišo</i>	<i>ikkollise</i> <i>akkollinne</i>	<i>ikkollisa</i> <i>akkolliso</i>	<i>kolliše</i> <i>inkollišan</i>
3 m.	<i>ikollinni</i> <i>inkollišo</i>	<i>ikolliše</i> <i>inkollinne</i>	<i>ikolliša</i> <i>inkollišo</i>	
f.	<i>ikollinni</i> <i>inkolliso</i>	<i>ikollise</i> <i>inkollinne</i>	<i>ikollissa</i> <i>inkolliso</i>	
pl. 1	<i>inkollinna</i> <i>ankollinno</i>	<i>inkollinne</i> <i>ankollinne</i>	<i>inkollinna</i> <i>ankollinno</i>	
2	<i>ikkollinnitan</i> <i>akkollisan</i>	<i>ikkollisen</i> <i>akkollinne</i>	<i>ikkollišan</i> <i>akkollisan</i>	<i>kolliša</i> <i>inkollišan</i>
3	<i>ikollinni</i> <i>inkollišan</i>	<i>ikollišen</i> <i>inkollinne</i>	<i>ikollišan</i> <i>inkollišan</i>	

²⁶ 以下、採取できた箇所のみ挙げる。データは複数のインフォーマントから得ており、一貫しない点も目立つが、仮の変化表としてそのまま記しておく。左から、現在-過去-未来-(命令)の順で、イタリック体は否定形である。

damiya 「食べる」

sg. 1	indammi <i>andamo</i>	indame <i>andamme</i>	iddamta <i>andamo</i>	
2	iddammi <i>addamto</i>	iddamte <i>addamme</i>	idama <i>addamto</i>	dame
3 m.	idammi <i>indamo</i>	idame <i>indamme</i>	idama <i>indamo</i>	
f.	idammi <i>indamto</i>	idamte <i>indamme</i>	idamta <i>indamto</i>	
pl. 1	indamminna <i>andammo</i>	indamme <i>andamme</i>	indamma <i>andammo</i>	
2	idammi <i>addamtan</i>	iddamten <i>addamme</i>	idaman <i>addamtan</i>	dama
3	idammi <i>indaman</i>	idamen <i>indamme</i>	idaman <i>indaman</i>	

ikkiya 「飲む」

sg. 1	ikkini <i>an'ikno/aniko</i>	inike <i>anik(e)ne</i>	inika <i>aniko</i>	
2	ikkini <i>a'ikto</i>	i'ikte <i>a'ikne</i>	i'ikta <i>iniko</i>	ike <i>a'ikto</i>
3 m.	ikkini <i>iniko</i>	i'ike <i>inikne</i>	i'ika <i>iniko</i>	
f.	ikkini <i>inikto</i>	i'ikte <i>inikne</i>	i'ikta <i>inikto</i>	
pl. 1	ikkininna <i>anikno</i>	inikne <i>anik(e)ne</i>	inikna <i>anikno</i>	
2	ikkinittan <i>a'iktan</i>	i'ikten <i>a'ikne</i>	i'iktan <i>a'iktan</i>	ika <i>inikan/a'iktan</i>
3	i'ikni <i>inikan</i>	i'iken <i>inikne</i>	i-ikan <i>inikan</i>	

kollatta 「学ぶ」 (否定形は肯定形とは異なるインフォーマントによるものである。)

sg. 1	inkollanni <i>ankollininčo</i>	inkollade <i>ankollinni</i>	inkollada <i>ankolledo</i>	kollado
2	ikkollanni <i>akkollikkito</i>	ikkollate <i>akkolenni</i>	ikkollata <i>akkollato</i>	
3 m.	ikollanni <i>inkollininčo</i>	ikollade <i>inkollanni</i>	ikollada <i>inkollado</i>	
f.	ikollanni <i>inkollininkittu</i>	ikollate <i>inkollanni</i>	ikollatta <i>inkollatto</i>	
pl. 1	inkollanninna <i>ankollinikkino</i>	inkollanne <i>ankollanni</i>	inkollanna <i>inkollano</i>	kollada
2	ikkollannnitan <i>akkollinnikkittan</i>	ikkollaten <i>akkollanni</i>	ikkollatan <i>akkollattan</i>	
3	ikollanni <i>inkollinničean</i>	ikolladen <i>inkollanni</i>	ikolladan <i>inkolladan</i>	

āniya 「行く」

sg. 1	anne <i>ana āno[aná:no]</i>	āne <i>ananne</i>	in'āna <i>aná'ano</i>
2	anne	anti	i'anta
3 m.	anne	i'āne(y)	i'āna
f.	anne	i'anti	i'anta
pl. 1	anninna	anne(y)	in'anna
2	annittan	antin	i'antan
3	anne	i'ānin	i'ānan

kidīya 「言う」²⁷

sg. 1	inkini	inkide	inkida	kide
2	ikini	ikide	ikita	
3 m.	ikini	ikide	ikida	
f.	ikini	ikite	ikita	
pl. 1	inkininna	inkine	inkina	kida
2	ikinittan	ikiten	ikitan	
3	ikini	ikiden	ikidan	

²⁷ 物語文等で、ikiddamte 'it was said'、ikidammi 'it is said' の受動形が頻出する。

dāsiya 「与える」

sg. 1	indāfanni	indāse	indāša
2	idāfanni	idāse	idāssa
3 m.	idfanni	idāše	idāša
f.	idfanni	idasse	idāssa
pl. 1	indānninna	indānne	indānna
2	idāfannitan	idāssin	idāssan
3	idfanni	indāšin	idāšan

pidḏiya 「買う」

sg. 1	inpidḏinni	inpidḏe	inpidḏa
2	ippidḏinni	ippidḏeti	ippidḏita
3 m.	ipidḏinni	ippidḏe	ipidḏa
f.	ipidḏinni	ipidḏiti	ipidḏita
pl. 1	inpidḏininna	inpidḏinne	inpidḏina
2	ippidḏinnitan	ippidḏitin	ippidḏitan
3	ipidḏini	ipidḏin	ipidḏan

dēya 「来る」

sg. 1	indēni	indiye	indīya
2	idḏēni	idḏeyti	idḏēta
3 m.	idēni	idiye	idīya
f.	idēni	idēti	idḏēta
pl. 1	indēninna	indēney	indēna
2	idḏēnitan	idḏētin	idḏiētan
3	idēni	iden	idḏiyan

kallatta 「住む」

sg. 1	inkallanni	inkallade	inkallada
2	ikkallanni	ikkallati	ikkallata
3 m.	ikallanni	ikallade	ikallatta
f.	ikallanni	ikallati	ikkallatta
pl. 1	inkallanninna	inkallanne	inkallanna
2	ikkallannitan	ikkallatin	ikkallattan
3	ikallanni	ikalladīn	ikalladīan

qabnatta 「持つ」 (現在形のみ採取)²⁸

sg. 1	qaba <i>anqabo</i>
2	qabta <i>aqqabto</i>
3 m.	qaba <i>inqabo</i>
f.	qabta <i>inqabto</i>
pl. 1	qabna <i>anqabno</i>
2	qabitan <i>aqqabitan</i>
3	qaban <i>inqaban</i>

ča (不定詞の形不明) 「いる、ある」

	(現在=過去)	(未来)
sg. 1	ča	čađa
2	kitta	čatta
3 m.	ča	čađa
f.	kitta	čatta
pl. 1	kinna	čanna
2	kittan	čatan
3	čan	čaďan

²⁸ 肯定形にはあるはずの人称接頭辞が欠けている。次の ča も変則的である。